

オオタルマワシの漂着

横山謙二

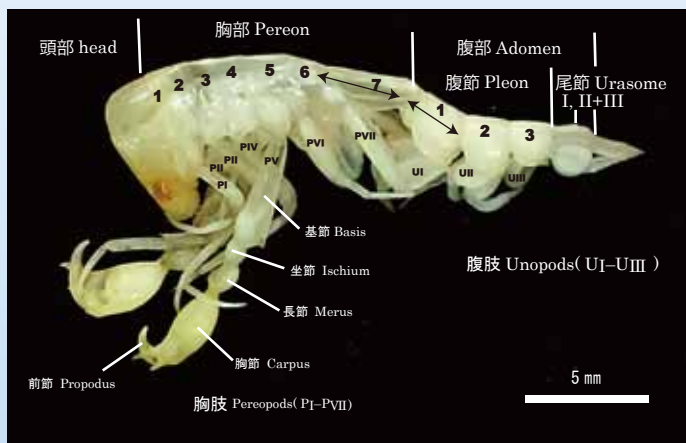
2024年2月から2025年3月にかけて、清水区三保の真崎海岸の漂着物を調査し、端脚目タルマワシ科の3種を採集しました。本科は、現在2属11種に分類され（Horton et al., 2022）、日本近海では5種が記録されています（森ほか, 2010）。本稿では、採集されたタルマワシ科オオタルマワシをご紹介します（同科のタルマワシモドキについては本号P14に掲載）。なお種の同定については、Vinogradov et al. (1996)に従いました。

オオタルマワシ

本種は本会報80号P7で、そのハウス（タル型の保育囊）について紹介され、そこに書かれているように外洋性種で、駿河湾ではミズウオの胃の内容物で記録されています。三保海岸では、これまでにたびたび漂着が確認されており、本調査でも11個体が採集され、そのうち3個体がまだ生きた状態で漂着していました。

本種の特徴は、第5胸肢の細く長い腕節と長い前節がつくる擬鉗（subchela）にあります。雌は特に腕節が長く、その腕節の前方遠位には細長い犬歯状の突起（前遠位歯状突起：the anterior distal tooth）が発達していることで他種と区別できます。またタルマワシ科は通常、雄は第1触角と第2触角の2対の触角を持ちますが、雌は短い第1触角のみなので雌雄の判別も容易です。これまで採集した本種は、不思議なことに全て雌で、ハウスの材料となるサルパ類などとともに漂着していましたが、ハウス内に入ったものは確認できていません。

生態は全身が透明で、頭部のほとんどをしめる複眼もよく観察できます。その泳ぎは、腹肢のみを使い、胸肢はまったく役にたっていないようです。



第1図 オオタルマワシ体制 ♀：2024 月 2 月 三保真崎灯台付近で採集



第2図 第5胸肢の擬鉗



第3図 大きい複眼：2025 年 3 月 16 日 12：56 採集 ♀



第4図 腹肢を使い泳ぐ様子：2025 年 3 月 20 日 10：00 採集 ♀